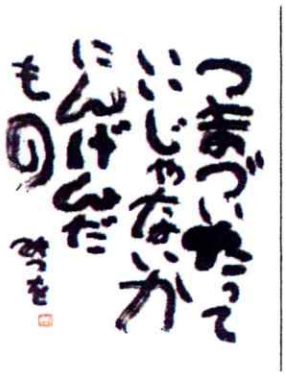
法語２　悪性さらにやめがたし　　こころは蛇蝎のごとくなり
　　修善も雑毒なるゆえに　　虚仮の行とぞなづけたる

趣意　同じ水でも牛が飲んだら牛乳になりますが、蛇やさそりが飲んだら毒を作り出す。この私も蛇やさそりと同じように煩悩の毒を無尽蔵に作り出している。そのなかでも三毒の煩悩は貪欲（とんよく・むさぼり）・瞋恚（しんに・いかり）・愚痴（ぐち・おろかさ）。この毒の煩悩をこの身いっぱいにかかえて縁にふれて、いつおそろしい毒がとび出すのかわからない。そういう私を阿弥陀さまは、「仏かねてしろしめして、煩悩具足の凡夫」と、かねてよりお見抜きになって、「私」をお目当てとして今ここで働き詰めに働いてくださっている。



5、つまづくのもおかげさま、ころぶのもおかげさま

つまづいたりころんだりしたおかげで、少しずつだが自分のことがわかってきました。あやまちや失敗をくり返したおかげで、人のことをいう資格のない自分に気がつきました。そして いざという時の自分の弱さとだらしなさがよくよくわかってきました。

6、ただ念仏

「念仏せよ」という呼びかけを聞いても、何回唱えればいいのかとか、声は大きい方がいいだろうとか、お経をよく理解してから唱えた方が値打ちがあるだろうとか、これは全部、私たちが考えた念仏。　一切の善人も悪人も、修行できるものも、出来ない状況にあるものも、あるいはそれまでの仏教から弾き出されていた凡夫も、残らず救うということ。

7、往生の生活

名を称え、仏を呼ぶ者になったとしても、我が自力の執心が消えることはない。自力の生活は変わらない。しかし、そのいのちいっぱいに自力を尽くしながら、諸仏の汗と涙と共に届けられた本願の呼びかけを一声の念仏に聞くとき、不思議にも往生の生活か開かれるのである。

8、浄土とはどんな世界なのか

仏教では地獄を「無明」と表す「愚痴」。餓鬼は「貪欲」と表す。畜生は「瞋恚」、いかりで表す。これらを「三毒の煩悩」と言う。これが自害害彼の根本であると教えている。「みんな浄土に生まれるということは、修行した者も、できなかった者も、どういう生まれであろうが、どういう能力があろうとなかろうと、誰もが平等に浄土に至ることができる」ということ。